

経営比較分析表（令和4年度決算）

愛媛県 西条市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	58.61	48.33	2,970	

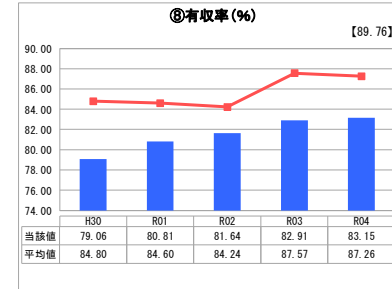
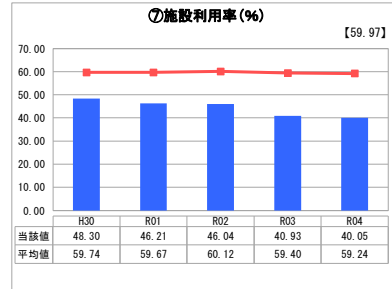
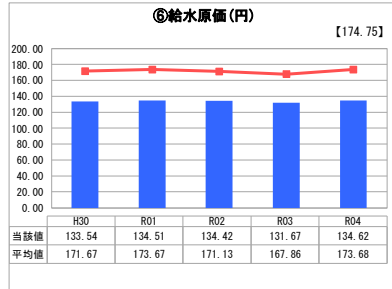
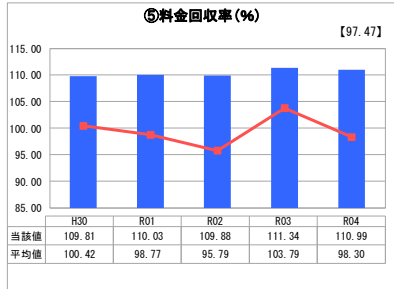
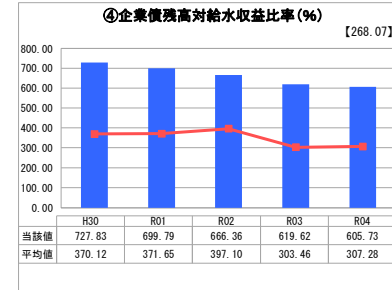
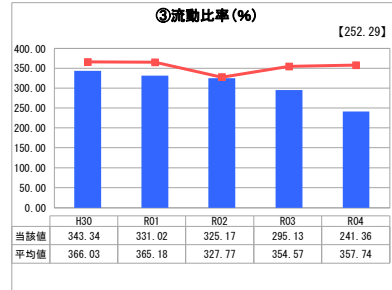
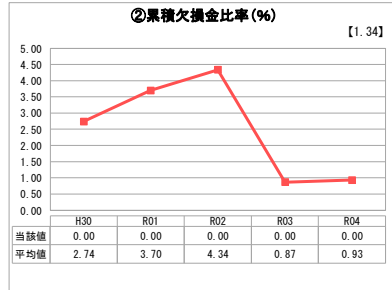
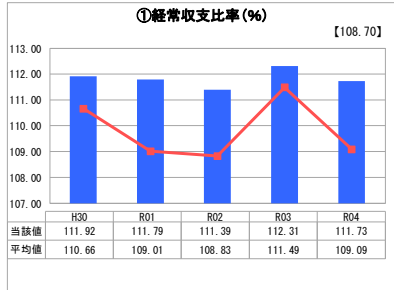
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
105,616	510.04	207.07
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
50,723	105.61	480.29

グラフ凡例

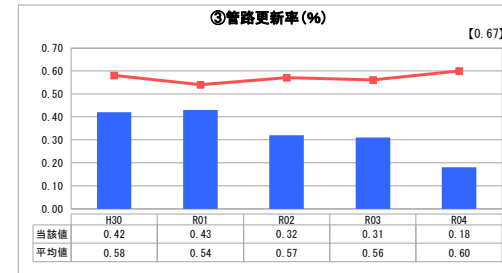
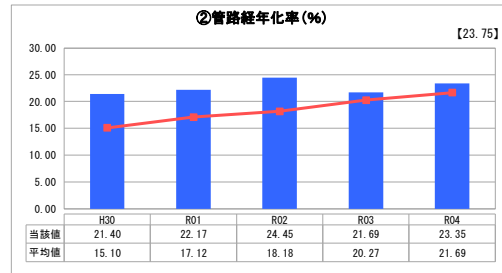
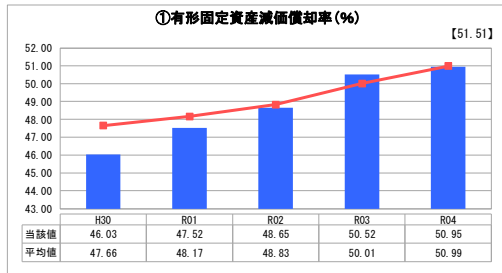
- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)

【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

令和4年4月使用分より平均改定率1.1%の値上げを行ったが、①経常収支比率及び⑤料金回収率は低下した。これは、物価高騰による費用の増加などによるものである。率は低下したものの、類似団体平均値を上回り、また事業統合（令和3年度）前の値と比較して高い水準もしくは同水準を維持している。

⑥給水原価についても、物価上昇の影響を受け、前年比で増加しているが、類似団体と比べ、低く抑えられている。当市は、良質な地下水が豊富にあり、高度な浄水施設等が不要なためである。

③流動比率については、類似団体平均値を下回っているが、100%を大きく上回っており、短期的な支払能力に問題はない。近年、流動比率が低下してきているのは、④企業債残高対給水収益比率を改善するため、財源の見直しを行っているためである。当市の率は類似団体と比べて非常に高く、企業債に依存した経営となっていたが、この取り組みなどにより減少傾向が見られる。

⑦施設利用率については、類似団体と比較して低くなっている。今後、大幅な低下が見られるようであれば、ダウンサイジング等も含めて検討する必要がある。

⑧有収率については、改善しつつあるが、未だ類似団体と比べて低いため、今後も引き続き漏水調査を行うなどして原因を特定し、改善する必要がある。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率については、類似団体と同程度の水準にあり、平均値の傾向と同様に今後も上昇していくことが見込まれている。

②管路経年化率については、類似団体と比較して高い水準にあり、今後も上昇していくことが見込まれている。連増していた経年化率が令和3年度に減少しているのは、令和3年度に統合した簡易水道及び専用水道の大半が比較的新しく創設された事業であり、耐用年数を迎えていない管路が多いためである。

③管路更新率は、現在、類似団体に比べて低いが、創設期・拡張期に布設された管路が耐用年数を迎えていく中で、計画的な更新等を行うことが求められる。

全体総括

西条市では、令和2年度の経営戦略策定、令和3年度の上水道及び簡易水道等の事業統合と将来を見据えた経営基盤の強化を進めてきた。令和4年度の料金改定の際には、合併以来の課題であった料金統一を行い、市内全域で1つの水道事業として経営していく体制を整えた。

経営改善を進めているものの、当事業は厳しい経営環境に置かれている。物価高の影響を受け、節水意識が高まり、使用水量が減少したことにより料金改定後にも関わらず収益の増加はほとんど見られず、経常的な費用も大きく増加している。

当市は良質な地下水が豊富であるがゆえに普及率が低く、効率性に欠ける部分がある。また施設の老朽化も進んでいるため、計画的に更新を行っていく必要がある。今後の経済状況等を注視しつつ、財源確保のあり方を検討し、持続可能な事業経営の実現に向け、引き続き取り組んでいく。